

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

教員は、学年共有スペースの利用の仕方の指導を通して、全ての生徒が学校内で、「落ち着いて」、「安心して」、過ごせるようにしている。また、生徒に対して自分自身で考えて行動することの大切さを繰り返し伝えている。このことで、生徒が自分たちで学習する環境を整えるなど、教員の声掛けに応えようとする場面が増えてきている。

【取組2】(B中学校)

運動会では、学年発表(ダンス)に向けて、クラスを超えて学年全体で練習することで、「同じ学年の仲間」として生徒同士が認め合う機会を経験することができるようにした。このことで、生徒同士の間で、ダンスの練習以外の場面でも、クラスに関係なく、頑張っている生徒を応援し合う雰囲気や育まれ、学年の一体感を高まった。



【取組3】(C中学校)

共感的な人間関係を育成する観点から、授業において、互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団づくりを推進している。生徒が授業場面で自ら考え、選択し、決定したりする機会を増やしている。

運動会に向けたクラス練習の際に、保健体育科の教員が生徒に質問を投げかけ、その後の様子を見守ることで、生徒たちは話合い、試行錯誤しながら主体的に運動会に向けた練習に取り組むことができた。

【取組4】(D中学校)

長期休業日中に校内研修を実施することで、研修を受講するための時間的な余裕を生み出した。不登校の理解を深める研修内容を学ぶだけでなく、関心ある研修内容を教員各自で深めるために、不登校が生じない未然防止の取組や不登校生徒への早期支援など、研修内容の精選を行った。また、年度当初に行った校内研修では、不登校対応に早期に取り組むことができ、効果的な支援が実現したという感想が教員から寄せられ、各教員の状況に応じた不登校対応の理解につながった。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（E中学校）

配慮が必要な生徒の情報や支援の方針を共有することに加えて、管理職の指導の下、特別支援教育コーディネーターを中心に、生徒の支援方法について協議する時間を確保している。その際、巡回教員は、専門的な知見に基づいた見立てや支援策等を提案している。

アウトリーチによる支援（A中学校）

校内支援会議を通して、不登校巡回担当が家庭訪問を行う体制を整えている。その際、適宜 SC、SSW や家庭と子どもの支援員等と連携を図っている。

担任の家庭訪問について、情報共有を行うとともに、対応のための助言を行っている。

校内別室における支援（E中学校）

同年代の生徒との交流を通して、社会性を育てる支援を行っている。校内別室利用生徒の実態に応じながら、安心できる環境で、小集団活動を通してソーシャルスキルの練習を行うことで、円滑なコミュニケーション能力を育てている。

参加生徒は、ピアサポートの場として「居心地の良さ」や「過ごしやすさ」を感じることができており、小集団活動に参加することが登校の楽しみとなっている。



デジタル機器を活用した支援（A中学校）

教科書、ワークや授業の課題等に加えて、授業支援ツールを活用した個別学習の環境を整備している。

学習する内容を自己決定する経験を通して、自己効力感を高める支援を行っている。



関係機関との連携（A・D・E中学校）

生徒と家庭について定期的に情報を共有することで、家庭の視点を含めて支援の方針を検討することができる。

家庭と学校が円滑に連携して生徒の成長を支えるために、SSW を通して家庭を支援する時期や方法を協議している。

成果

巡回担当校間の取組や成果等の情報を共有し、各校の状況に合わせた校内体制の強化
校内別室における教員間で連携した多様な個別の支援の拡充

課題

個別対応のための個別支援計画に沿った校内支援の実施
学校と円滑に連携を取ることが難しい家庭への支援